

# 持続可能な大和バスを 実現するために



# 【目次】

- 市の基本的な考え方
- 大和バスの歴史
- 大和バス30便への経緯と考え方
- 今後の進め方

# 【目次】

- **市の基本的な考え方**
- 大和バスの歴史
- 大和バス30便への経緯と考え方
- 今後の進め方

# 市の基本的な考え方

1. 大和バスは大和住民の生活にとって重要なインフラの1つであり、**市は継続的に支援を行う**
2. 「住民生活」と「バス事業」と「市の財政」それぞれの**持続可能性を配慮したバス路線とする**
3. 持続可能なバス路線にするために、**住民、事業者、市はそれぞれ連携・協力をする。**

# 持続可能な大和バスを実現するために

1. **市は令和8年度～10年度の運行のため、  
予算1,500万円/年の補助金（3年分）を確保**  
(要：地交会議の承認・議会の議決)
2. **地域住民は**バスのルートへの検討や利用促進の取組み  
など**主体的に乗客数増の取組みを行う**
3. 持続可能なバス運行のため、  
**地域住民、事業者、学識経験者、市等で協議の場を設置する**

# 【目次】

- 市の基本的な考え方
- 大和バスの歴史**
- 大和バス30便への経緯と考え方
- 今後の進め方

# 大和バスの歴史 ①

- 昭和58年：市民病院が中央町から東畦野に移転。それに伴い  
**市民病院のアクセスを向上させるためにスタート。**  
★市が赤字補填を行うために**補助金を出す唯一の路線**
- 平成13年：**大和地区へ延伸**
- 平成17年3月：赤字額が増加したことから「付帯決議」
- 平成20年～：大和地区のMMなどの取組み  
⇒地域のイベントでの無料乗車券配布、  
「大和バスだより」の発行、ポスターの掲示や  
hanica出張販売など、様々なMMに取り組まれている

# 大和バスの歴史 ②（平成31年～）

- 平成31年 2月：赤字が拡大しているため、**阪急バス社より市に対し「補助路線再編に係る要望書」が提出される。**
- 令和2年2月：新たなモビリティの実証実験の検討開始
- 令和2年10月：市・地元・阪急バス間で補助路線の持続可能な運行の検討を開始
- 令和2年4月：緊急事態宣言（R2年4月～5月21日）
- 令和3年9月：ダイヤ・ルートの一部変更  
（大和線（平日）41便⇒38便）

# 【目次】

- 市の基本的な考え方
- 大和バスの歴史
- 大和バス30便への経緯と考え方
- 今後の進め方

# 大和バス30便への経緯と考え方①

## ■ 令和4年3月：地域公共交通会議

コロナ禍への緊急的な対応として、**令和4年10月～令和6年9月**  
**における補助上限額を21,204千円/年に増額**

★補助額14,773千円で運行の場合の目標人員は約19万人/

年

※運賃改定（160円→220円）

## ■ 令和4年10月～期間限定の運行開始

・ **大和団地線(平日)減便なし**

**(土日)21便⇒12便**

平野山下線(平日)22便→6便

(土日)16便→4便

# 大和バス30便への経緯と考え方②

## ■ 令和 5年 2月:地域公共交通会議

- ・ 評価期間（令和4年10月～令和5年12月）を提案し、了承を得る。
- ・ 病院移転後における路線のあり方を協議。  
生活の足として定着していることからバスの継続を整理。

## ■ 令和 5年 7月:地域公共交通会議

路線のあり方を再協議。また、**利用者増加に向けて地元発意のルート変更について提案し、了承を得る。**

## ■ 令和 5年10月:ダイヤ・ルートの一部変更(地元発意)

# 大和バス30便への経緯と考え方③

## ■令和5年11月：地域公共交通会議

令和4年10月から**1年間の輸送人員（146,635人）**が

**当初の目標（193,032人）**を下回っていたことを報告。

## ■令和6年3月：地域公共交通会議

**実績に基づき目標輸送人員を再検証（193,032人⇒159,033人）**

新ルートで予測した**輸送人員数値（142,731人）**が**目標輸送人員に達しなかった。**

**平日38便から30便への減便**について了承を得る。

# 令和4年10月～令和6年9月までの実績

- 当初目標（見込み）：**約19万3千人**
- 下方修正（実績値）：**約15万9千人** ※人件費圧縮のため
  
- 令和4年10月～令和5年9月（実績）  
乗客：**約14万7千人** 赤字額：**約1,620万円**
- 令和5年10月～令和6年9月（実績）  
乗客：**約14万5千人** 赤字額：**約1,920万円**

(R4.10~R5.9)	令和4年			令和5年									合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
輸送人員(人)	12,421	12,332	11,763	11,251	11,232	12,618	12,179	12,459	12,991	12,600	13,013	11,776	146,635
(平野山下線)	1,622	1,557	1,595	1,666	1,615	1,913	1,875	1,927	1,916	1,903	1,848	1,778	21,215
(大和団地線)	10,799	10,775	10,168	9,585	9,617	10,705	10,304	10,532	11,075	10,697	11,165	9,998	125,420

(R5.10~R6.9)	令和5年			令和6年									合計
	10月 (ルート変更)	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
輸送人員(人)	12,186	11,777	12,003	10,734	11,149	11,648	12,544	12,695	12,710	13,846	11,705	12,161	145,158
(平野山下線)	1,954	1,858	1,814	1,717	1,773	1,770	1,859	1,932	1,836	1,898	1,671	1,761	21,843
(大和団地線)	10,232	9,919	10,189	9,017	9,376	9,878	10,685	10,763	10,874	11,948	10,034	10,400	123,315

# 大和バス30便への経緯と考え方④

令和6年6月：川西市議会で以下が可決する

- 令和6年10月～令和8年3月末の債務負担行為

**(金額：22,160千円)      ★年額14,773千**

**円**

- 「補正予算に対する付帯決議」(建設常任委員会)
- 「大和循環バス平日38便運行維持に関する請願書」

# 大和バス30便への経緯と考え方⑤

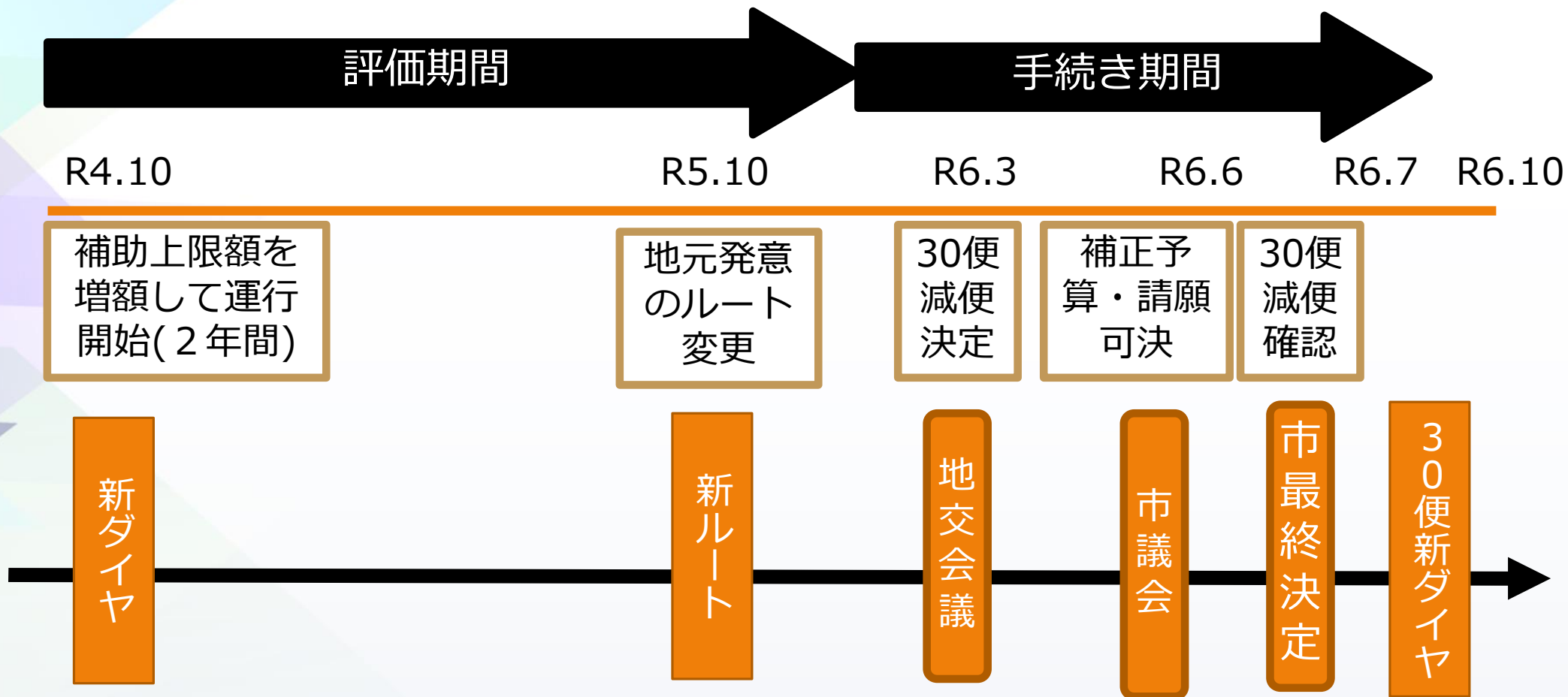
## ■ 令和6年7月29日：建設常任委員協議会

地域公共交通会議の意見を踏まえ、

**市として減便（30便）の方向性に変わりがないことを報告**

・ 令和6年10月：平日30便の運行開始

# 令和6年10月運行の考え方



# 【目次】

- 市の基本的な考え方
- 大和バスの歴史
- 大和バス30便への経緯と考え方
- **今後の進め方**

# 持続可能な大和バスを実現するために

1. **市は令和8年度～10年度の運行のため、  
予算1,500万円/年の補助金（3年分）を確保**  
(要：地交会議の承認・議会の議決)
2. **地域住民は**バスのルートへの検討や利用促進の取組み  
など**主体的に乗客数増の取組みを行う**
3. 持続可能なバス運行のため、  
**地域住民、事業者、学識経験者、市等で協議の場を設置する**

# 今後の進め方について

## (令和8年4月以降の運行)

4月  
以降

1. 地元地域・事業者・学識経験者・市が集まり、  
**協議の場を設置**



9月頃

2. 令和7年9月開催予定の地域公共交通会議にて、  
**目標乗客数、ルート等のダイヤ設定承認**



12月

3. 市は**3年間で当初予算1,500万円/年の補助金を確保** (要：議会の議決)